

しみずとうだい
清水灯台

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：静岡県静岡市 竣工年：明治45年 管理者：清水海上保安部
認定理由：清水灯台は明治45年に点灯した国内最初の鉄筋コンクリート構造灯台。
建設要望は一端却下されたが町長の熱意により建設された。

平成 22 年度登録



美保の松原の風景・木立の間に羽車神社が見える。

その地形から天然の良港として利用されてきた清水港であったが、近代初期には国内航路に対する港でしかなく、鉄道の発達とともに振るわなくなる。清水町有志たちは盛んな運動を興し、1899（明治 32）年には外国へ茶の輸出が許される「開港場外特別輸出港」に指定される。開港場となった清水港の茶輸出量は日本一となる。さらなる発展のため清水港の修築計画が持ち上がり、その要として建造されたのが、清水灯台である。当時の町長である土谷松太郎は、逡信省に対して度々陳情を行い、ついに国費負担による建設を 1912（明治 45）年に実現する。日本初となった鉄筋コンクリート造の灯台の姿は、この材料の特性を活かしたスリムな 8 角断面の塔とされた。この地は羽衣伝説をもつ「美保の松原」と称する名勝地でもあり、折しも近隣の羽車神社が再建されて名勝の顕彰に目が向けられていた時代に建設されたこともあり、灯台頂部には風見鶏の代わりに、羽衣をまとして飛翔する天女の姿がデザインされている。



築港以前（明治 10 年）の清水港の様子

